

第1次 新城市総合計画

資料編



新 企 2 ・ 1 ・ 1
平成 2 6 年 6 月 1 1 日

新城市総合計画審議会会長 様

新城市長 穂 積 亮 次

新城市総合計画について（諮問）

新城市総合計画審議会条例第 2 条の規定に基づき、新城市総合計画後期基本計画の策定及び、平成 2 5 年度実施計画書に掲げた施策・事務事業の成果測定と評価について、貴審議会の意見を求めます。

平成27年2月19日

新城市長 穂積亮次 様

新城市総合計画審議会
会長 大 貝 彰

新城市総合計画後期基本計画及び施策・事務事業の成果測定と
評価について（答申）

平成26年6月11日付け新企2・1・1で総合計画審議会に諮問のありました「新城市総合計画について」につきましても、当審議会において「新城市総合計画後期基本計画の策定」並びに「平成25年度実施計画書に掲げた施策・事務事業の成果測定と評価」について慎重に審議した結果、以下のとおり答申いたします。

なお、総合計画後期基本計画が、これまで同様市政運営の指針として活用されるとともに、下記事項に留意され、めざす将来像「市民がつなぐ 山の湊 創造都市」の実現にあたられますよう要望します。

記

- 1 別添に示す新城市総合計画後期基本計画の推進については、前期及び中期基本計画の取り組みの成果や市民満足度調査の結果等を十分に踏まえ、まちづくりの4つの基本戦略と4つの行政経営ビジョンに沿って、持続可能な地域社会の創造に努められたい。
- 2 本計画期間においては、次の点について特に配慮するよう留意されたい。
 - (1) 人口定住を図ること
 - (2) 魅力ある商店街の形成などの地域産業の活性化を図ること
 - (3) 地域における効果的な活動を支援、検討すること

また、本市の厳しい財政状況や社会経済情勢の変化、市民ニーズ等を踏まえ、国、県、近隣市町村、各種機関・団体等との緊密な連携を図りながら、計画の着実な執行を図られたい。

平成25年度実施計画書に掲げた施策・事務事業の成果測定と評価について

今年度の評価概要

今年度は、昨年度に引き続きテーマ選定方式を採用することとし、市の提案による4テーマに沿って、集中した調査・審議を行いました。

また、総合計画に掲げる「市民満足度の向上」に必要な視点や方策などについて、事務事業評価調書や市民満足度調査などを基に評価することと合わせ、事業を説明する担当職員との議論を通じ、職員が我々の意見を参考に仕事の仕方を見直すきっかけや自己点検・評価の中の課題を見つけ出すことも狙いの一つとしました。

審議テーマ

審議テーマは、今年度実施した市民満足度調査と平成22年度の市民満足度調査を比べ、満足度が低下した項目や継続して低い項目、調査結果では満足度自体は比較的高いものの、さらに満足度を上げるために考慮すべき点を探る必要のある項目などをもとに4テーマを選定しました。

テーマ1 「地域の防災組織の充実」

テーマ2 「産業（第2次・第3次）の振興」

テーマ3 「にぎわいの創出と交流人口対策」

テーマ4 「窓口サービスの対応」

各審議テーマに関する意見・要望・改善提案

(1) 「地域の防災組織の充実」

- ・ 自主防災組織のメンバーや消防団員に女性が登用されていることや中学校での防災訓練が強化されたことなどは評価できます。今後も訓練等の積極的な活動を続けてください。
- ・ 実際の災害時には、区長を中心とする防災組織だけでは十分機能しないことが予想されます。地域の防災は、地域支援団員を含む消防団員による活動も欠かせません。そこで、市、地区、地元消防団の情報伝達体制の中に、経験豊富な地域支援団員をもっと有効活用する方法を検討し、防災組織の充実について具体的な案を出してください。
- ・ 防災訓練について、区長、消防団（地域支援団員を含む）の組織図を作成し、再度周知してください。また、その役割分担が確認できる訓練を実施してください。
- ・ 防災に関する若い世代の関心度を高めるため、情報を得やすいSNSなどのツールを活用した情報提供を検討してください。

(2) 「産業（第2次・第3次）の振興」

- ・ 企業誘致に関して、企業訪問や誘致案内など非常に多くのPR活動を実施している点は評価できます。今後も市内各地域の立地・環境条件を考慮したPR活動を進めてください。
- ・ 戦略的に新都市を売り込み、優良企業が来たくくなるような市の魅力としての強さと体力をもつことが必要です。また、誘致企業と近隣住民の平穏な生活が共存できるしくみを作ってください。
- ・ 市民満足度調査で「新都市の魅力」と感じている割合が伸びている「地勢を活かしたスポーツイベント」を市のカラーとして鮮明に打ち出し、関連する企業の誘致を進め、市の魅力のPRなど課を超えて取り組む活動を進めてください。
- ・ 第3次産業に関する満足度を高めるため、商業施設をはじめとする企業誘致等にも力を入れ、雇用の創出につなげてください。

- ・市の預託事業や補助事業について、制度が活用されているかどうかを検証してください。また、活用された場合の成果・効果を明示してください。

(3) 「にぎわいの創出と交流人口対策」

- ・奥三河を含め東三河の中核として広域的な観光を、新都市が主導で取り組んでいることは効果が高いと思います。今後も若者のニーズにあった面白いイベントなど地域性を活かした取り組みを進めてください。
- ・市の観光事業による経済効果を算出し、費用対効果のある事業を推進してください。
- ・面白いイベントが数多く開催されているが、イベント情報等が市民にもっと伝わる工夫として、インターネットやSNSを活用しターゲットを絞った戦略的なPRや統一性のあるPR、またそれらPRの専任担当者の配置など効果的なPRの強化を検討してください。
- ・日帰りや宿泊はもちろん、一時居住や週末居住などU・J・Iターンも含めて観光と組み合わせた地域おこしを検討し、おもてなしをする側の人材の確保・育成を推進してください。
- ・より大きな経済効果を上げるため、観光課の体制強化、観光課とスポーツ課や関係各課の連携強化を図ってください。また、スポーツをメインに市を盛り上げるスポーツ観光担当部署の立ち上げを検討してください。
- ・スポーツ活動の拠点となる総合体育館の整備について、早期に具体的な計画を示してください。

(4) 「窓口サービスの応対」

- ・職員が市民サービスを提供する上で、特に念頭においてほしい重要な点は、「誠実な職務の遂行」です。服務規程の順守や公務員としての倫理観の保持、全体の奉仕者という自覚と責任ある行動を常に心がけてください。
- ・「専門的知識を持ち、住民からの問い合わせや相談に的確に応えられる」ことは、とても重要です。専門職として住民の不安や心配ごと、困りごとの的確に対応できる行政の知識を提供してくれることを求めます。
- ・職員自身がきちんとした知識を持っているというプライドと、それを正しく使える自負心を持っていれば、必要以上にへりくだることはありません。専門知識と対応能力を備え、思いやりのある窓口の応対をお願いします。
- ・個人情報やプライバシーの管理について、市役所全体で現在の個人情報利用のしくみを見直し改善案を出してください。また、新庁舎建設にもそれらを反映してください。
- ・職員の士気や知識を互いに高めあうような制度・しくみを検討してください。

以上、本市がめざす将来像の実現に向けて、重点施策や主な事業が着実に推進され、答申内容の成果が実ることを切に願い、審議会答申とします。

○市民満足度調査項目の個別目標(施策)における施策達成度指標対照表

分類	市民満足度調査項目	満足率		章	個別目標(施策)
		今回	前回		
		H26	H22		
A 福祉・健康	1. 子育てを応援するためのサービス	65.7%	62.2%	4 4 4	3-2-1-1 子どもを生む環境を整えます 3-2-1-2 子どもを育てる環境を整えます 3-2-1-3 保育ニーズに対応する保育サービスを進めます
	2. 高齢者の自立支援や福祉対策	59.9%	59.2%	4 4	3-2-2-1 地域内福祉・相互扶助活動を進めます 3-2-2-2 高齢者の生きがい対策を進めます
	3. 障害者の自立支援や福祉対策	59.5%	57.1%	4 4	3-2-2-1 地域内福祉・相互扶助活動を進めます 3-2-2-3 障害者の自立を支援します
	4. 健康づくり支援の充実	67.0%	63.9%	4 4	3-1-2-1 予防医療を進めます 3-1-2-2 健康づくりを応援します
	5. 地域医療等の充実	35.0%	22.8%	4 4 4	3-1-1-1 病院・診療所の体制を整えます 3-1-1-2 地域医療の連携を進めます 3-2-1-1 子どもを生む環境を整えます
	6. 社会保障制度の充実	42.8%	42.7%		
B 教育・文化・生涯学習	1. 児童・生徒の教育環境対策	60.7%	57.9%	4	2-4-2-1 確かな学力と郷土愛を育む学校づくりを進めます
	2. 学校教育施設の整備	59.8%	62.5%	4	2-4-2-1 確かな学力と郷土愛を育む学校づくりを進めます
	3. 文化、芸能等の振興、保存	66.2%	64.8%	4 4 4	2-4-1-1 歴史文化財を継承します 2-4-1-2 歴史文化財・伝承文化等の紹介・活用を進めます 2-4-3-1 市民文化活動を応援します
	4. 文化施設の整備充実	61.3%	59.1%	4	2-4-3-1 市民文化活動を応援します
	5. 歴史遺産、文化財の保護・活用	69.3%	68.2%		
	6. 生涯学習の推進	64.3%	63.8%	4	2-4-3-3 生涯学習活動を応援します
	7. スポーツに親しむ環境づくり	62.1%	59.6%	4	2-4-3-2 市民スポーツ活動を応援します
	8. 青少年の健全育成	56.5%	55.5%	4	2-4-2-2 地域ぐるみで青少年の健全育成を進めます
C 生活環境	1. 暮らす場の整備	53.2%	51.5%	4 4 4 4 4	2-3-2-4 公園、墓園の整備を進めます 2-3-2-5 良質な住宅の整備を進めます 2-3-2-6 生活環境を保全します 2-3-2-7 移住・定住を進めます 3-3-3-1 犬の愛護管理対策を進めます
	2. 快適な生活道路の整備	44.3%	45.0%	4	2-3-1-2 道路網の整備を進めます
	3. 憩い空間の充実	42.1%	42.3%		

分類	市民満足度調査項目	満足率		章	個別目標(施策)
		今回	前回		
		H26	H22		
C 生活・環境	4. 通学や生活の足としての公共交通機関等の充実	36.2%	37.1%	4	2-3-1-1 公共交通網の整備と利用向上を進めます
	5. 安全な水の供給	82.1%	75.5%	4	2-3-2-2 安全な水を届けます
	6. 衛生的な下水・雨水の処理	67.8%	61.9%	4	2-3-2-3 下水を処理し水環境を守ります
	7. ごみ、し尿処理への取り組み	67.7%	66.4%	4	4-1-3-2 廃棄物の適正処理を進めます
	8. 環境対策への取り組み	61.0%	62.7%	4 4 4 4 4 4	4-1-1-1 地域の環境を学びます 4-1-1-2 地域の環境を調査し紹介します 4-1-2-1 農村環境を保全します 4-1-2-2 森林環境を保全します 4-1-2-3 水辺の環境を保全します 4-1-3-1 循環型社会への取り組みを進めます
D 安全・安心対策	1. 交通安全対策の推進	56.7%	50.2%	4	3-3-2-2 交通安全対策を進めます
	2. 防犯対策への取り組み	60.2%	57.5%	4	3-3-2-1 防犯活動を進めます
	3. 大地震対策への取り組み	49.9%	50.1%	4 4	3-3-1-1 地震・防災対策を進めます 3-3-1-2 災害対策能力を強化します
	4. 地域の防災組織の充実	62.3%	65.7%	4	3-3-1-2 災害対策能力を強化します
	5. 消防・救急体制の充実	61.1%	60.9%	4	3-3-1-3 消防体制を強化します
E 産業・経済・都市基盤	1. 第1次産業(農林水産業)の振興	52.5%	50.2%	4 4 4 4 4 4 4 4 4	2-2-1-1 森林の保全・整備を進めます 2-2-1-2 林業生産活動を応援します 2-2-1-3 林業基盤の整備を進めます 2-2-2-1 農業生産物の消費拡大を進めます 2-2-2-2 農業生産活動を応援します 2-2-2-3 農業基盤の整備を進めます 2-2-3-4 地域産業振興政策を進めます 4-1-2-1 農村環境を保全します 4-1-2-2 森林環境を保全します
	2. 第2次産業(鉱業、建設業、製造業)の振興	43.2%	41.6%	4 4	2-2-3-2 企業誘致を進め、雇用を確保します 2-2-3-3 がんばる中小企業を応援します
	3. 第3次産業(サービス業)の振興	33.4%	33.3%	4 4	2-2-3-3 がんばる中小企業を応援します 2-2-3-4 地域産業振興政策を進めます
	4. にぎわいの創出と交流人口対策	44.0%	43.6%	4 4	2-1-1-1 地域資源を活かした観光戦略を進めます 2-1-1-2 観光施設を有効に活用します
	5. 便利な市街地・中心街の整備	30.4%	29.7%	4 4	2-2-3-1 魅力ある商店街づくりを応援します 2-3-2-1 活気がある市街地をつくります

分類	市民満足度調査項目	満足率		章	個別目標(施策)
		今回	前回		
		H26	H22		
E 産業・ 都市経済 基盤	6. 円滑な道路網の整備	60.4%	54.4%	4	2-3-1-2 道路網の整備を進めます
	7. 市の宣伝・情報提供の充実	39.1%	39.7%	4 4	1-1-2-1 広域連携・交流を進めます 3-3-2-3 消費者支援活動を進めます
F 総合	1. 市の広報・広聴の充実	66.7%	67.1%	4 4 5 5 5 5 5 5 5 5	1-1-1-2 情報の発信と共有を進めます 1-1-1-3 市民ニーズを把握します 1-2-1-2 歳出の抑制に努めます 2-3-1-2 適正な定員管理を進めます 3-1-1-1 優秀な人材を確保します 3-1-1-2 人材を育成します 4-1-1-2 情報の発信と共有を進めます 4-1-1-3 市民ニーズを把握します 4-2-1-1 情報技術によるサービス向上を進めます
	2. 窓口サービスの対応	72.3%	70.1%	5 5 5	2-3-1-1 組織機構の見直しを進めます 3-2-1-2 能力に応じた適正評価等を進めます 3-3-1-1 人材を育てる職場をつくります
	3. 地域情報化への取り組み	67.8%	66.2%	4 4 4 5 5	1-1-1-2 情報の発信と共有を進めます 2-1-2-1 利用可能な情報システムの拡大を進めます 2-1-2-2 光ファイバネットワークを有効に活用します 4-1-1-2 情報の発信と共有を進めます 4-2-1-1 情報技術によるサービス向上を進めます
	4. 住民自治の活性化	59.8%	57.8%	4 4 4 5 5 5	1-1-1-1 まちづくりの協働体制を整備します 1-2-1-1 市民活動を応援します 1-2-1-2 地域内分権の担い手を組織します 2-1-1-1 市民参加の機会を示します 2-1-1-3 市民自治を進めます 2-2-1-1 行政評価制度を導入します
	5. 住民参加への取り組み	65.0%	57.8%	4 4 4 4 4 5 5 5 5 5 5 5	1-1-1-1 まちづくりの協働体制を整備します 1-1-1-3 市民ニーズを把握します 1-2-1-1 市民活動を応援します 1-2-1-2 地域内分権の担い手を組織します 1-2-3-1 男女共同参画社会をつくります 2-1-1-1 市民参加の機会を示します 2-1-1-2 行政手続きを明確にします 2-1-1-3 市民自治を進めます 2-2-1-1 行政評価制度を導入します 2-4-1-1 民間委託等を進めます 4-1-1-3 市民ニーズを把握します
	6. 国際交流への取り組み	63.6%	60.8%	4 4	1-2-4-1 多文化共生を進めます 1-2-4-2 国際交流活動を応援します
	7. 広域連携への取り組み	56.0%	53.6%	4	1-1-2-1 広域連携・交流を進めます
	8. 市の一体感を感じる取り組み	54.2%	53.8%	4	1-2-2-1 市民交流を進めます

1. 調査の目的

本市では、平成20年度にスタートした「第1次新城市総合計画」に基づき、さまざまな施策を行っており、これまでの評価及び、平成27年度から平成30年度の後期基本計画策定の参考とするため、市内の住民の方々から、公共サービスの満足度やまちづくりについての考えを把握することを目的とします。

2. 調査方法

本調査の概要は以下に示すとおりです。

- (1) 調査地域 : 新城市内全域
- (2) 調査対象 : 市内に在住する満18歳以上の住民
- (3) 対象者数 : 5,000人
- (4) 抽出方法 : 住民基本台帳より、地区別、年齢階層別、男女別の抽出率を設定し無作為抽出
- (5) 調査方法 : 郵送による配布・回収
- (6) 調査期間 : 平成26年5月19日(月)～6月2日(月)

3. 回収結果

アンケートの回収結果は以下に示すとおりです。

配布数	5,000票
有効回収数	1,924票
有効回収率	38.5% (平成22年:42.3%、平成19年:54.3%)

※なお、1,925票の回収を得ましたが、うち1票は白紙等であったため無効票として扱い、1,924票を有効回収数としています。

公共サービスに対する満足度

【6分野の評価について】

◆「教育・文化・生涯学習分野」、「総合的分野」では満足率が高く、「産業・経済・都市基盤分野」では満足率が低くなっています。

- 公共サービスに対する満足度を把握するため、「A福祉・健康分野」、「B教育・文化・生涯学習分野」、「C生活・環境分野」、「D安全・安心対策分野」、「E産業・経済・都市基盤分野」、「F総合的分野」の6つの分野において、それぞれ複数の取組項目を設定し、回答者には、各項目について「満足」、「やや満足」、「やや不満」、「不満」の4段階で評価していただいた。
- なお、無回答だった者を除く回答者のうち、「満足」、「やや満足」と回答した者の割合を満足率と定義し、以下ではこの満足率を評価指標として各分野の公共サービスに対する住民の満足度として分析した。

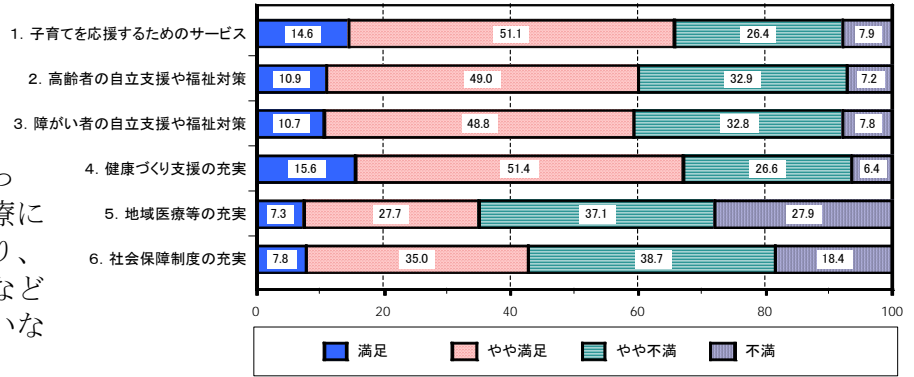
【前回調査結果との比較】

- もっともポイントが上昇したのは、「地域医療等の充実」(12.2ポイント上昇)。⇒平成23年6月に長篠に公設助産所「しんしろ助産所」をオープンしたり、新城市民病院改革プランに基づいた広域連携による医療機能の向上や経営の改善を図ってきていることが評価につながっていると考えられる。
- 「住民参加への取り組み」(7.2ポイント上昇)。⇒各種の計画づくりや施設整備にあたって住民参加を実施してきたこと、地域自治体制度を導入して住民と行政の協働でのまちづくりが進んできていることなどが主な要因と考えられる。
- 「地域の防災組織の充実」(3.4ポイント低下)。⇒東日本大震災の発生、集中豪雨による土砂災害などが起き、災害への危険性が高まるとともに、過疎化や少子高齢化で地域の防災体制が脆弱化してきていることを懸念していることが主な低下の要因と考えられる。
- 「学校教育施設の整備」(2.7ポイント低下)。⇒小学校の統廃合や学校教育施設的环境整備が進んでいないことなどが満足度を低下させた主な要因として推測される。

※全体の公共サービスに対する満足率および前回調査からの変化は、市ホームページに掲載した結果報告書の8ページをご覧ください。

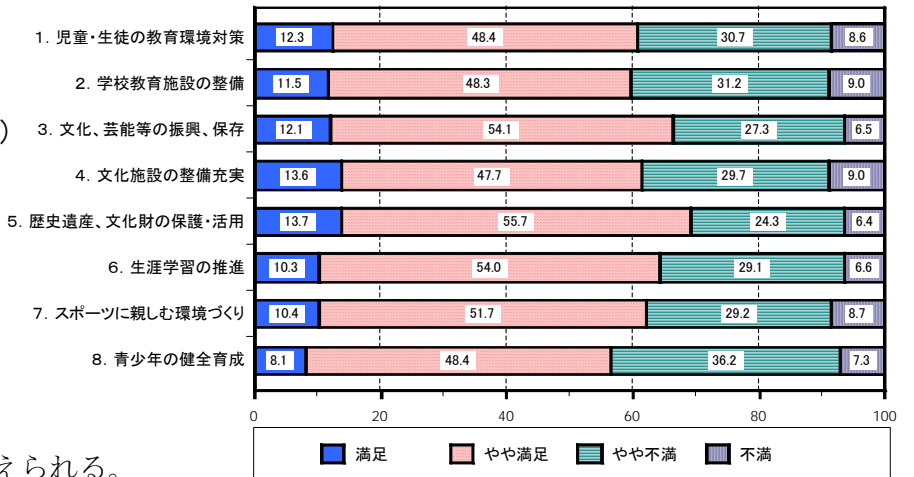
A. 福祉・健康分野

○「地域医療等の充実」（満足率が35.0%、前回調査に比べて12.2ポイント上昇）。福祉・健康分野の中では満足率が低くなっている。⇒高齢化が進む中で医療に対するニーズが高まってきており、医師不足や医療サービスの拡充などが市民の期待値まで充足されていないことが原因と思われる。



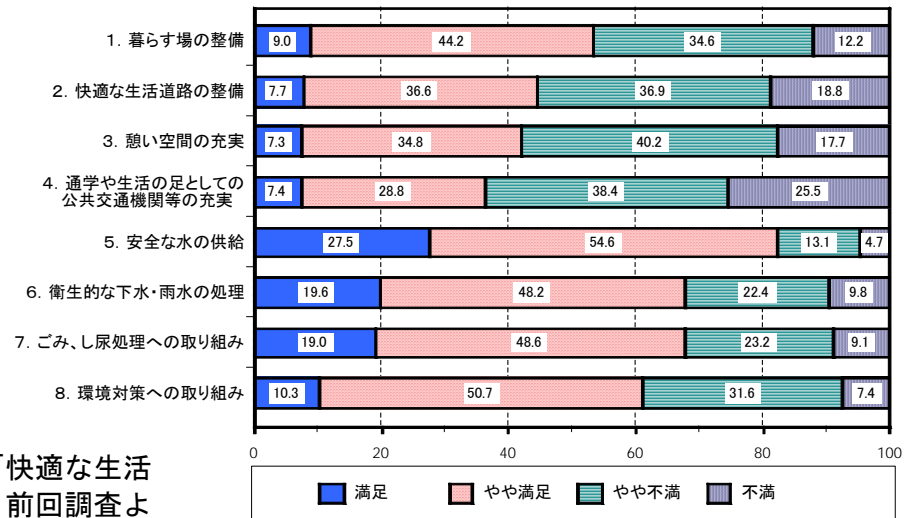
B. 教育・文化・生涯学習分野

○全ての項目で満足率50%超。（特に「歴史遺産、文化財の保護・活用」は満足度が69.3%）⇒長篠・設楽原の戦いなど、戦国の遺産を振り返る祭りの開催やそれに関わる伝統行事などの継承。フェイスブック等による情報発信や書籍、情報誌等を書店等で目にする機会が多くなったことにより、より多くの市民が身近に市の歴史を感じやすくなったことも一因と考えられる。



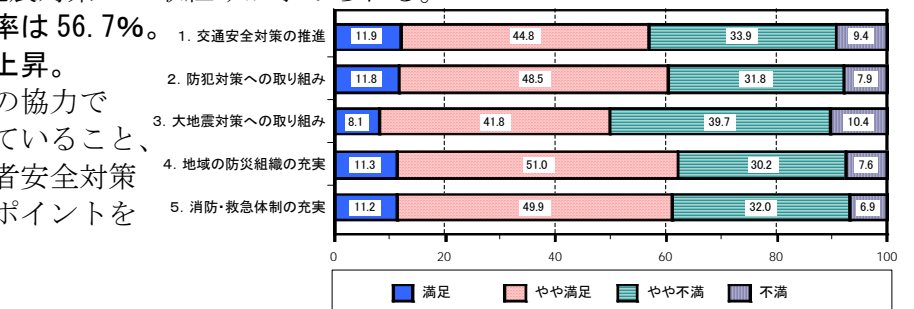
C. 生活・環境分野

○「安全な水の供給」（満足率が82.1%と全項目で最も高い）。
 ○「通学や生活の足としての公共交通機関等の充実」（満足率が36.2%と非常に低い）。⇒年齢別データから推察すると、若者や子を持つ親の世代が低くなっている。運行本数が少ないことなどを理由に公共交通に対して不満を持っている人が多くなっていると考えられる。
 ○「憩いの空間の充実」（42.1%）、「快適な生活道路の整備」（44.3%）が低く、前回調査よりもポイントが低下。⇒生活環境としてのインフラ整備に対して不満を感じている人が多くなっている。



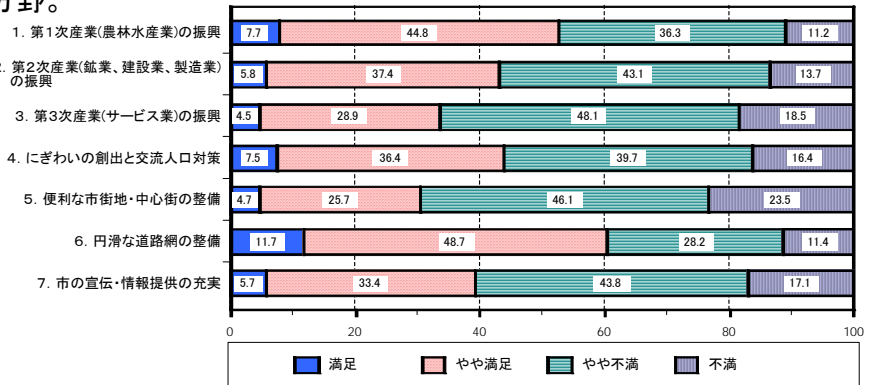
D. 安全・安心対策分野

○「大地震対策への取り組み」を除き、満足率が50%以上。⇒東日本大震災の発生や南海トラフ巨大地震が近い将来に発生することが予想される中、満足率は49.9%と低く、なおかつ前回調査よりも0.2ポイント低下しており、大地震対策への取組みが求められる。
 ○「交通安全対策の推進」の満足率は56.7%。前回調査に比べて6.5ポイント上昇。⇒歩道等の道路整備や地域住民の協力で交通安全パトロールが実施されていること、通学路のカラー舗装などの歩行者安全対策の実施などが、前回調査よりもポイントを上昇させた要因と考えられる。



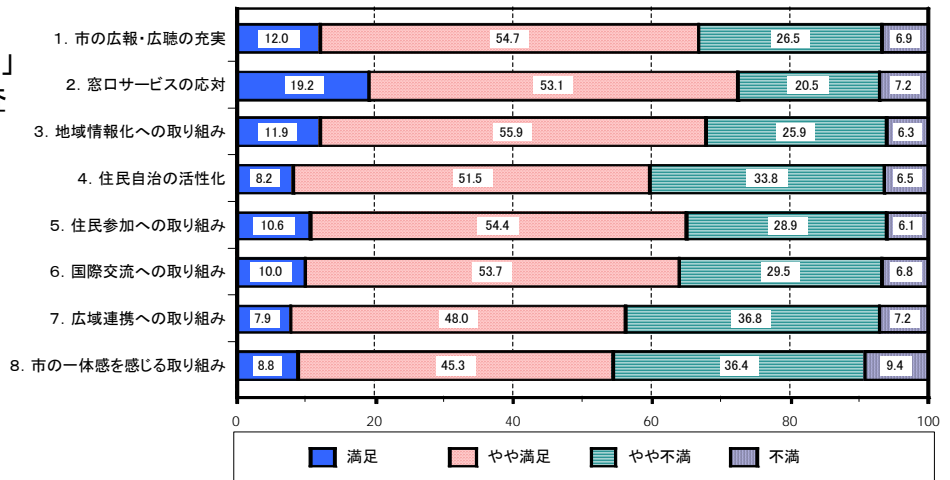
E. 産業・経済・都市基盤分野

- 「便利な市街地・中心街の整備」の満足率が30.4%で最も低い。⇒国道151への商業施設の立地などにより、中心市街地の商業機能が衰退していることが考えられる。
- 「第3次産業（サービス業）の振興」（満足率が33.4%）、「市の宣伝・情報提供の充実」（満足率が39.1%）など、満足率が最も低い分野。
- 「円滑な道路網の整備」（満足率が60.4%と他の項目に比べて高く、前回調査に比べて6ポイント上昇）。⇒国道151の整備、三遠南信州自動車道の開通と鳳来峡インターの開設、さらには新東名高速道路が整備中であるなど、広域的な道路網が充実してきていることが推測される。



F. 総合的分野

- 全ての項目で満足率50%超。（特に「窓口サービスの対応」は満足度が72.3%、前回調査から2.2ポイント上昇）
- 「住民参加への取り組み」（65.0%、前回調査から7.2ポイント上昇）など、前回調査と比べても満足率が徐々に高くなっている。

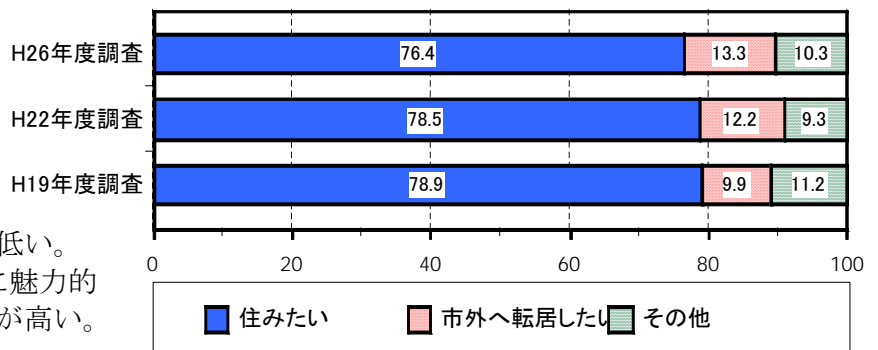


市のこれからのまちづくりについて

【1. 定住意向について】

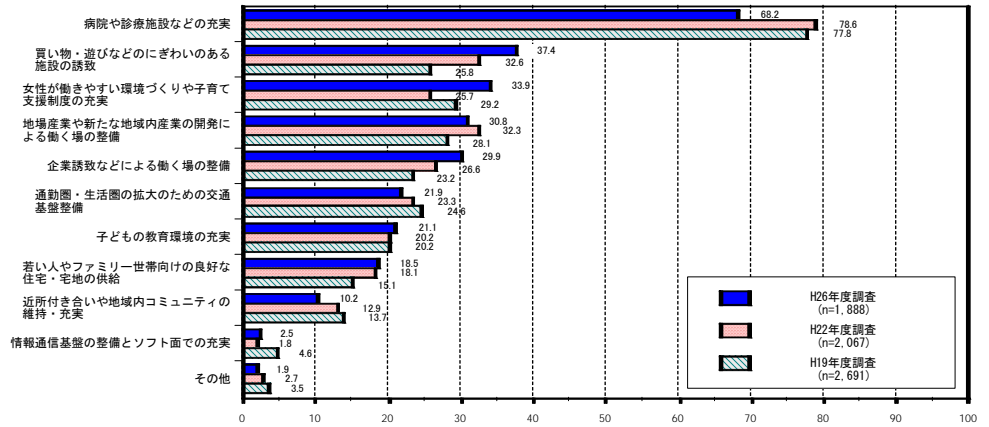
- 新都市での今後の定住意向に対して、「住みたい」との回答が76.4%、「市外へ転居したい」が13.3%、「その他」が10.3%となっており、定住意向が強くなっている。
- しかし、前回調査と比較して、「住みたい」との回答は78.5%から76.4%へと2.1ポイント減少し、「市外へ転居したい」が12.2%から13.3%へと1.1ポイント上昇している。

- ・新城地区、作手地区は市平均と比べて「住みたい」の割合が高く、鳳来地区では「住みたい」の割合が他地区に比べて低い。
- ・年齢が若くなるにつれて、「住みたい」と回答する割合が低い。特に18～29歳では「この地域に魅力的な働く場がないから」との理由が高い。



【2. 定住対策について】

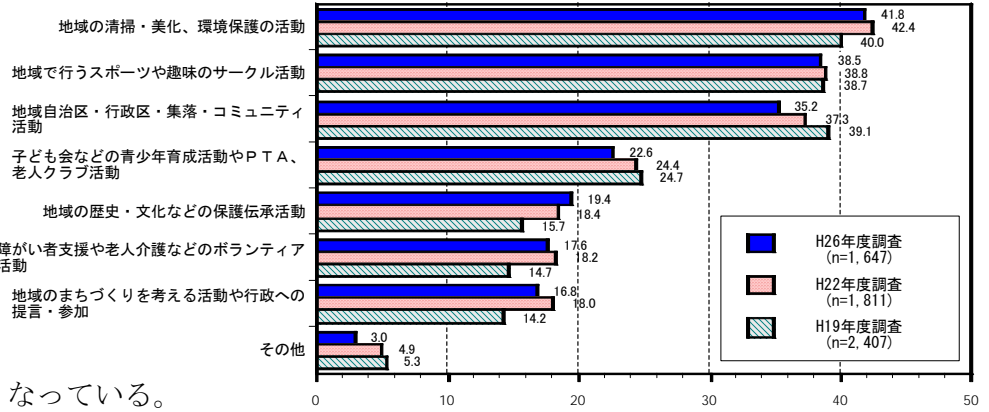
- 定住促進施策として「病院や診療施設などの充実（68.2%）」が最も高く、次いで「買い物・遊びなどのにぎわいのある施設の誘致（37.4%）」「女性が働きやすい環境づくりや子育て支援制度の充実（33.9%）」となっている。
- 前回調査と比較して、「女性が働きやすい環境づくりや子育て支援制度の充実」が8.2ポイント増加しており、女性が子どもを産み育て働くことができる支援策が求められていると思われる。



【3. 地域の自治活動への参加意向について】

○参加・協力していきたい自治活動としては、「地域の清掃・美化、環境保護の活動 (41.8%)」が最も高く、次いで「地域で行うスポーツや趣味のサークル活動 (38.5%)」「地域自治区・行政区・集落・コミュニティ活動 (35.2%)」となっている。

○前回調査と比較しても上位3つの活動への参加希望が高い状況に変化がない。なお、「地域の歴史・文化などの保護・継承活動」は1.0ポイント上昇した以外は全てでポイントが低下しており、住民自治活動への参加希望が低くなっている。

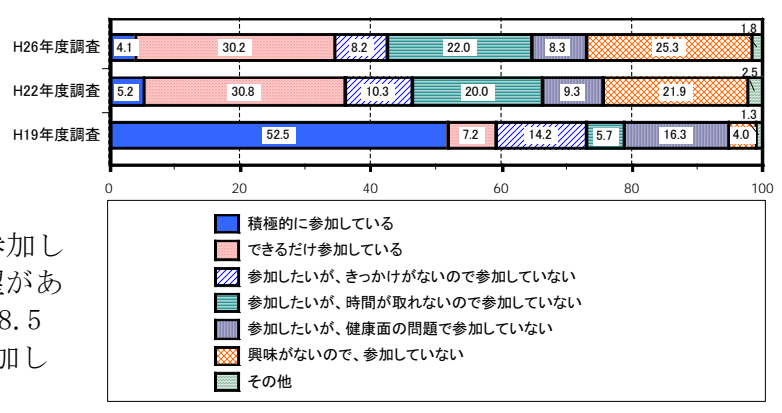


【4-1. 自治活動への参加状況について】

○地域力を高める自治活動への参加については、「積極的に参加している (4.1%)」「できるだけ参加している (30.2%)」のあわせて34.3%。前回調査の36.0%と比較して1.7ポイント低下。

○「参加したいが、きっかけがないので参加していない」など、参加したいという希望があるものの参加していない人は合わせて38.5%を占めている。「興味がないので、参加していない」は25.3%。

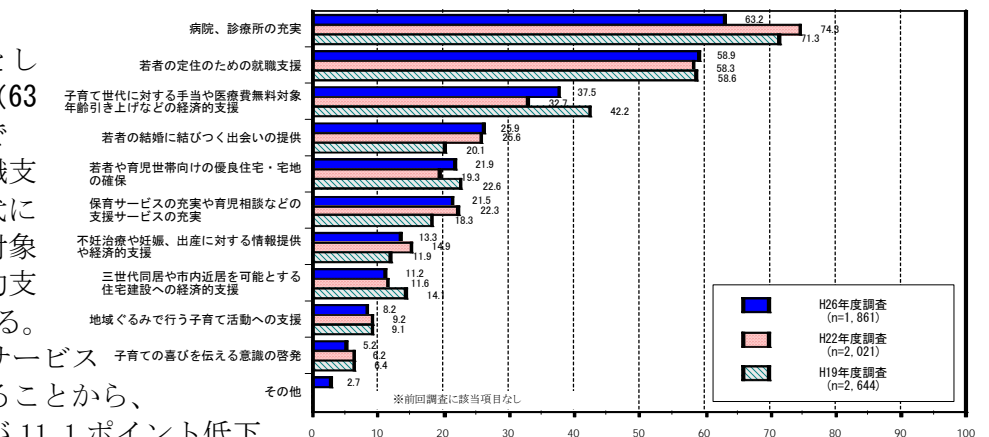
○前回調査に比べ、参加している人は1.7ポイント低下し、参加しない人は3.4ポイント上昇しており、自治活動の重要性の啓発など、参加を促すための方策を考える必要がある。



【5. 少子化対策について】

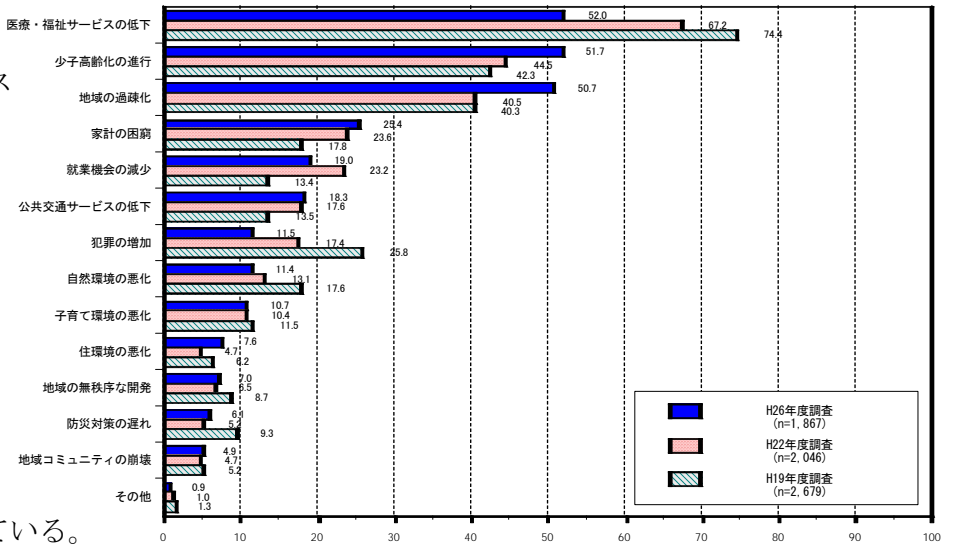
○少子化対策に有効なものとして「病院、診療所の充実 (63.2%)」が最も高く、次いで「若者の定住のための就職支援 (58.9%)」「子育て世代に対する手当や医療費無料対象年齢引き上げなどの経済的支援 (42.2%)」となっている。

○前回調査に比べて、医療サービス等の充実が図られつつあることから、「病院、診療所の充実」が11.1ポイント低下。また「子育て世代に対する手当や医療費無料対象年齢引き上げなどの経済的支援」が4.8ポイント上昇しており、子どもを産み育てていけるような経済的な支援が求められている。



【6. 将来への不安について】

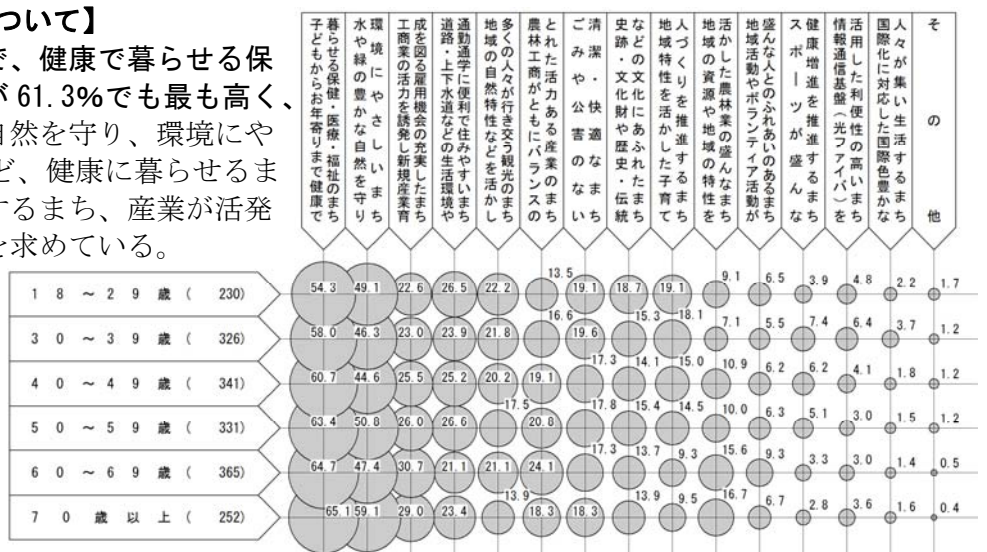
- 半数以上の人が少子高齢化、過疎化、医療・福祉サービスの低下を将来の不安として考えている。
- 前回調査と比較して、医療サービス等が充実してきたことから、「医療・福祉サービスの低下」が15.2ポイント低下し、その一方、「少子高齢化の進行」は7.2ポイント上昇、「地域の過疎化」は10.2ポイント上昇、「地域の無秩序な開発」は10.2ポイント上昇するなど、少子高齢化、過疎化を不安と感じている人が増えている。



【7. 公共サービスへの住民負担等については省略】

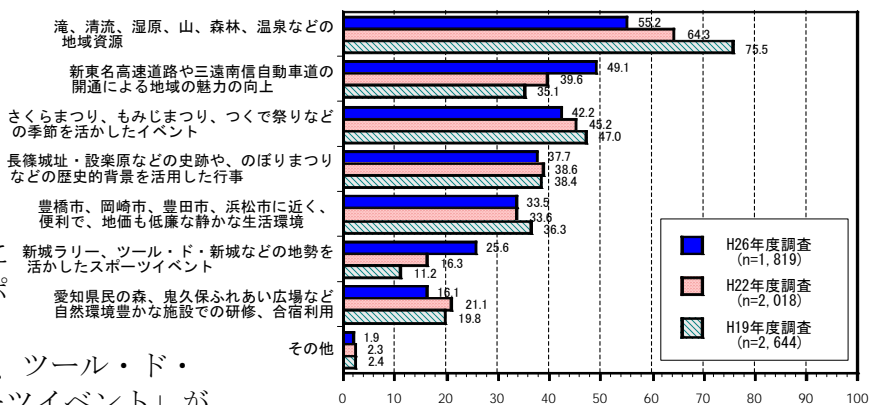
【8-1. 新都市の将来の姿について】

- 「子どもからお年寄りまで、健康で暮らせる保健・医療・福祉のまち」が61.3%でも最も高く、次いで「水や緑の豊かな自然を守り、環境にやさしいまち」が49.2%など、健康に暮らせるまち、自然や環境を大切にすまち、産業が活発なまち、住みやすいまちを求めている。
- 前回調査でも上記4項目が上位を占めていた。
- 年齢別の特徴として、若い世代ほど「地域特性を活かした子育て、人づくりを推進するまち」の割合が高くなっている。



【9. 新都市の魅力について】

- 「滝、清流、湿原、山、森林、温泉などの地域資源」が55.2%で最も高く、豊かな自然を新都市の魅力と考えている人が多い。
- 前回調査に比べて、「新東名高速道路や三遠南信自動車道の開通による地域の魅力の向上」が9.5ポイント上昇している。
- 前回調査に比べて、「新城ラリー、ツール・ド・新城などの地勢を活かしたスポーツイベント」が9.3ポイント上昇。スポーツイベントを新しい新都市の魅力として評価する人が増えてきている。



新東名高速道路のIC設置による変化について

【1. 期待すること】

- 新東名高速道路のインターチェンジができることで期待することは、観光客が増加することなど、観光面での期待が最も高くなっている。また、雇用の促進や企業誘致などへの期待など、産業面での期待も高くなっている。

【2. 不安に思うこと】

- 不安に思うことは、交通事故の増加や治安などの安全対策が最も多くなっている。また、排気ガスなどの公害、交通量の増加や渋滞、騒音などを懸念する意見が多くなっている。

新城市の将来に関する中学生アンケート調査 結果報告書概要

2. 調査方法

本調査の概要は以下に示すとおりです。

- (1) 調査地域：新城市内全域
- (2) 調査対象：市内の中学校に通学する中学3年生
- (3) 対象者数：465人
- (4) 抽出方法：対象者全員
- (5) 調査方法：校内での配布・回収
- (6) 調査期間：平成26年5月19日（月）～6月2日（月）

3. 回収結果

アンケートの回収結果は以下に示すとおりです。

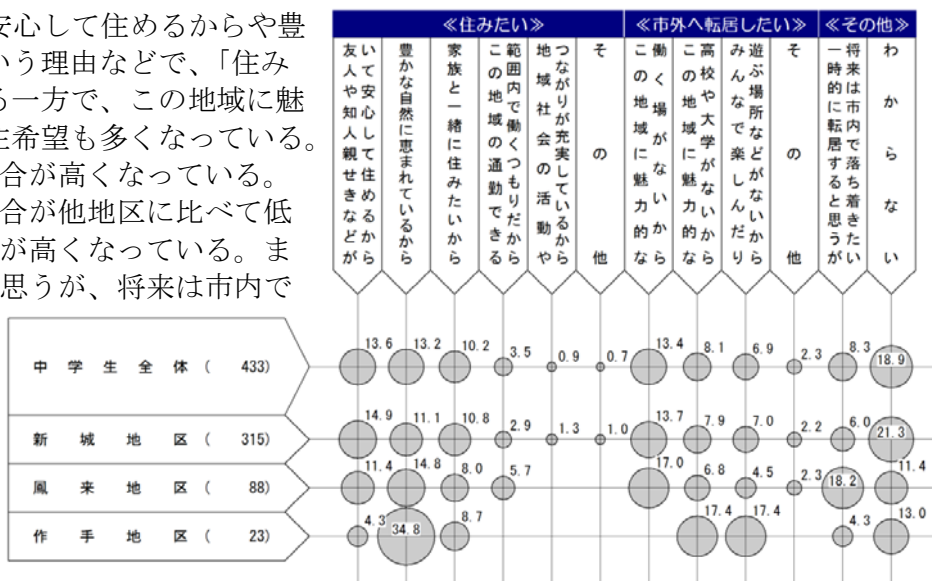
配布数	465 票
有効回収数	436 票
有効回収率	93.8%（平成22年：93.6%、平成19年：97.0%）

※なお、445票の回収を得ましたが、うち9票は白紙等であったため、無効票として扱い、436票を有効回収数としています。

定住について

【1. 定住意向について】

- ◆友人や知人、親せきなどがいて安心して住めるからや豊かな自然に恵まれているからという理由などで、「住みたい」との回答が多くなっている一方で、この地域に魅力的な働く場がないことから移住希望も多くなっている。
- ◆新城地区では、「住みたい」の割合が高くなっている。
- ◆鳳来地区では、「住みたい」の割合が他地区に比べて低く、「市外へ転居したい」の割合が高くなっている。また、「市外に一時的に転居すると思うが、将来は市内で落ち着きたい」という理由も高い。
- ◆作手地区では、市平均と比べて「住みたい」の割合が高くなっている。その一方で「市外へ転居したい」の割合が他地区に比べて高くなっている。



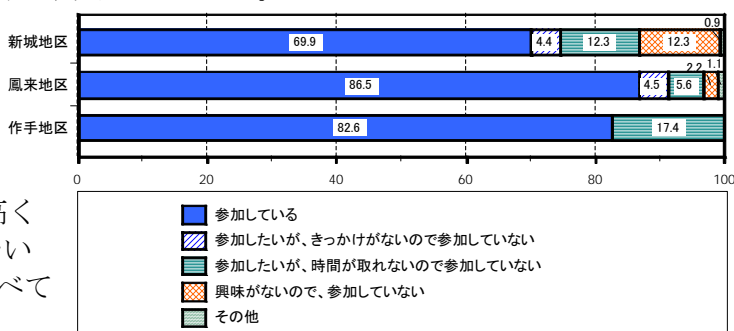
【2. 定住対策について】

- ◆定住促進施策としては、賑わいのある施設の誘致や、交通基盤の整備などの利便性などが求められている。

地域活動への参加について

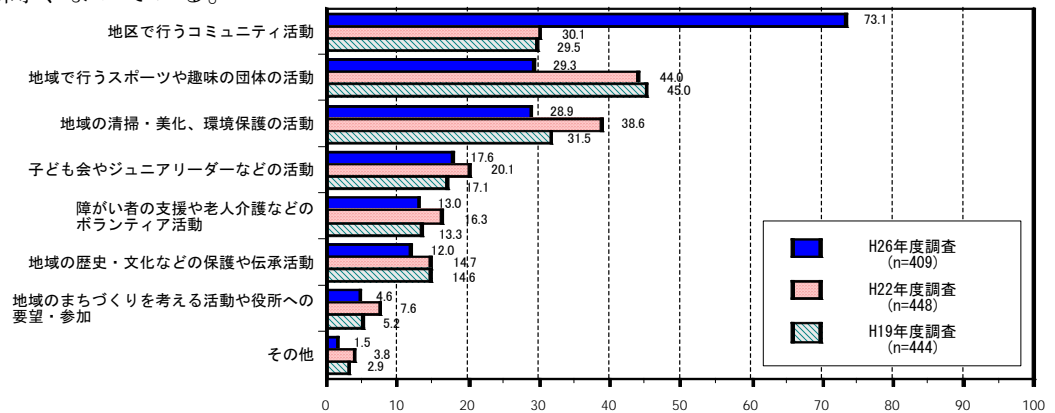
【1. 地域の行事への参加状況について】

- ◆地域の行事へは74.0%参加しており、参加意識は高くなっている。
- ◆新城地区では、「参加している」が69.9%と低く、また「興味がないので、参加していない」が12.3%と高くなっている。
- ◆鳳来地区では、「参加している」が86.5%と他地区に比べて高くなっている。
- ◆作手地区では、「参加している」が82.6%と高くなっているが、「参加したいが、時間が取れないので参加していない」も17.4%と他地区に比べて高くなっている。



【2. 地域の行事への参加意向について】

- ◆参加・協力したい地域の行事としては、「地区で行うコミュニティ活動」が73.1%（299名）で最も高い。次いで「地域で行うスポーツや趣味の団体の活動（29.3%）」「地域の清掃・美化、環境保護の活動（28.9%）」となっている。
- ◆前回調査に比べ、「地区で行うコミュニティ活動」が43ポイント上昇するなど、地区での活動への参加意向は高くなっている。



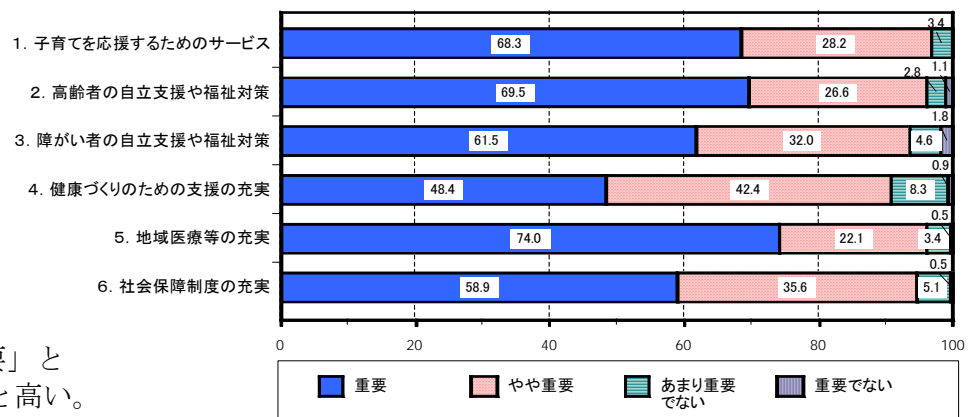
公共サービスに対する重要度

- ◆公共サービスに対する重要度を把握するため、住民アンケートと同様の「A、B、C、D、E、F」の6つの分野において、それぞれ複数の取組項目を設定し、回答者には、各項目について「重要」、「やや重要」、「あまり重要でない」、「重要ではない」の4段階で評価していただいた。
- ◆なお、無回答だった者を除く回答者のうち、「重要」、「やや重要」と回答した者の割合を重要度と定義し、以下ではこの重要度を評価指標として各分野の公共サービスに対する中学生の重要度として分析した。

A. 福祉・健康分野

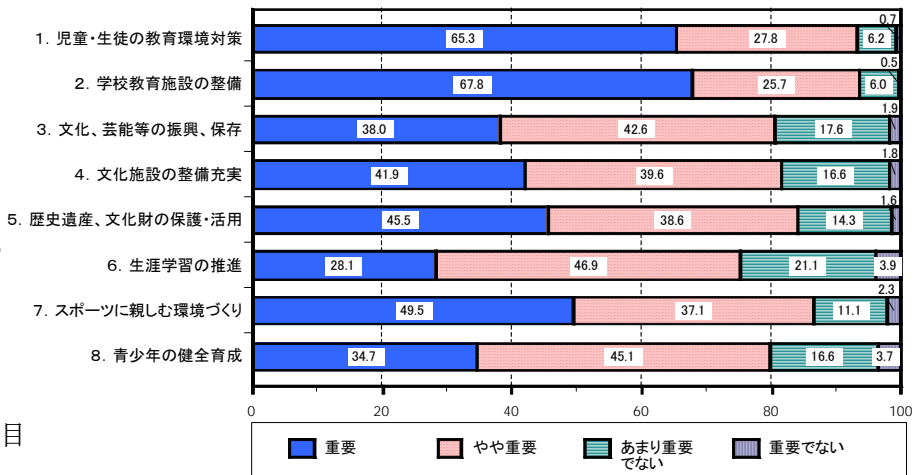
- ◆全ての項目で重要度が90%以上。福祉・健康分野について重要と考えている中学生が多い。

- ◆「子育てを応援するためのサービス」に対する重要度が96.5%と最も重要度が高い。次いで「高齢者の自立支援や福祉対策」と「地域医療等の充実」に対する重要度が96.1%となっており、特に「地域医療等の充実」は「重要」と回答した割合が74.0%と高い。



B. 教育・文化・生涯学習分野

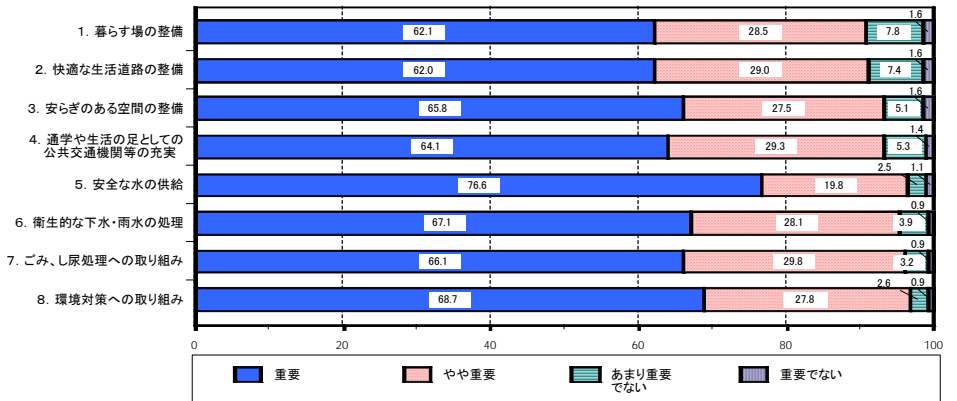
- ◆中学生に身近な「学校教育施設」や「児童・生徒の教育環境対策」への重要度が高い。
- ◆全ての項目で重要度が70%を超え、特に「学校教育施設の整備」の重要度が93.5%と高い。
- ◆一方で、「生涯学習の推進」の重要度が75.0%と他の項目に比べて低い。



C. 生活・環境分野

◆全ての項目で重要度が90%以上。生活・環境分野について重要と考えている中学生が多い。特に全ての項目で「重要」と回答した割合も60%以上となっている。

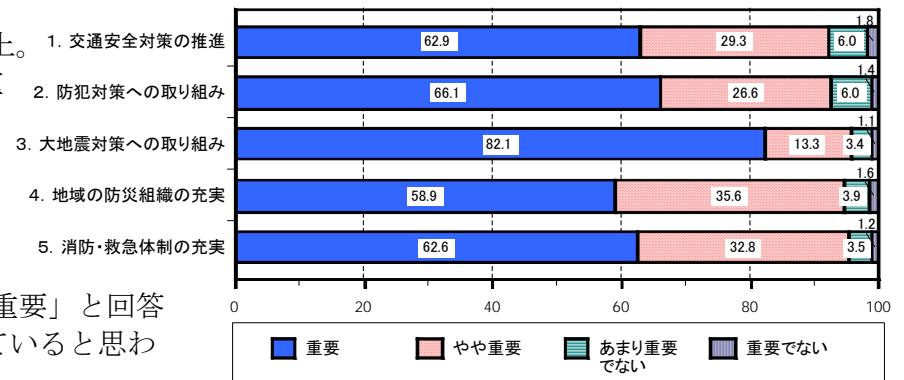
◆「環境対策への取り組み」に対する重要度が96.5%で最も高い。次いで「安全な水の供給」が96.4%、「ごみ、し尿処理への取り組み」が95.9%、「衛生的な下水・雨水の処理」が95.2%と、特に環境面について重要度が高い。



D. 安全・安心対策分野

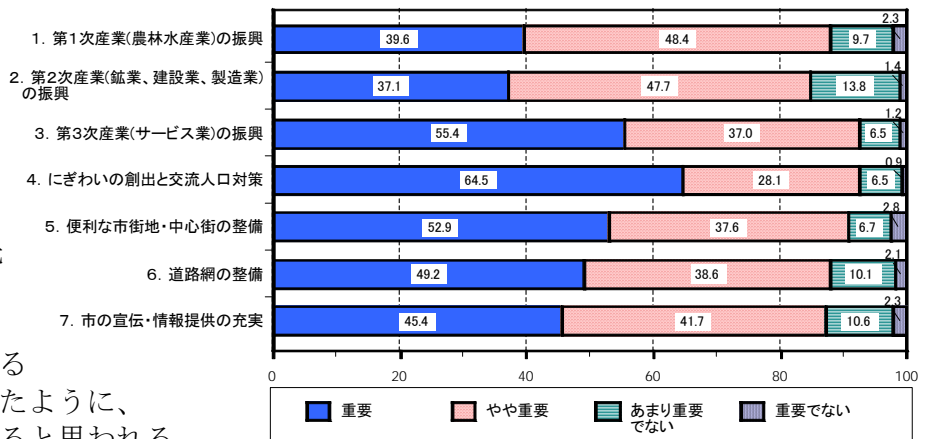
◆全ての項目で重要度が90%以上。安全・安心対策分野について重要と考えている中学生が多い。特に「大地震対策への取り組み」については、東日本大震災の発生や南海トラフ巨大地震が近い将来に発生することが予想されていることから、「重要」と回答した割合が82.1%と高くなっていると思われる。

◆重要度の中では、「大地震対策への取り組み」と「消防・救急体制の充実」が95.4%で最も高い。



E. 産業・経済・都市基盤分野

◆全ての項目で重要度が80%以上。特に「にぎわいの創出と交流人口対策」についての重要度が92.6%で最も高い。次いで「第3次産業の振興」が92.4%と高く、商業や観光への重要度が高い。なお必要な定住促進施策として「買い物・遊びなどのにぎわいのある施設の誘致」の回答が高かったように、中学生はにぎわいを求めていると思われる。



F. 総合的分野

◆全ての項目で重要度が75%以上。特に「地域情報化への取り組み」の重要度が86.8%で最も高い。次いで「住民自治の活性化」の重要度が84.6%と高い。

